

- ◆ 令和12年度を目標年度とする第9次計画では、昨今の生乳及び牛肉の需給緩和や生産資材の高騰などを踏まえ、酪農畜産を取り巻く情勢変化に対応し、生産基盤の維持・強化と経営安定の確保を図るため、第8次計画をベースに「関係者一丸となった消費拡大」、「収益性の向上」、「低コスト生産」の取組を進め、将来にわたり地域経済・社会の活性化にも貢献できる強固な産業となることを目指す。

1 酪農経営・生乳流通

〈酪農経営〉

- 関係者一丸となった牛乳乳製品の消費拡大、再生産可能な所得を確保するための適正な価格形成に関する消費者理解を醸成
- 地域コミュニティを維持・発展するため、経営規模に応じた生産者への支援、新規就農者の確保に向けた環境整備を推進
- 労働力不足に対応するため、スマート農業技術の活用による省力化や、営農支援組織の体制強化を支援
- 暑熱耐性や疾病抵抗性など、長命連産性に優れた乳用牛群への転換や、本道の自給飼料基盤をフル活用した放牧酪農の取組を推進
- こうした取組を通じて経営体質の強化を図り、生乳生産目標数量445万トンを目指す

〈生乳流通〉

- 集送乳の合理化、消費者ニーズに応じた商品開発や輸出拡大のための施設整備を推進

2 肉用牛経営・食肉流通

〈肉用牛経営〉

- 和牛全共北海道大会を契機とした北海道和牛振興の加速化
- 分娩間隔の高位平準化による子牛生産の安定化と、ゲノミック評価を活用した種雄牛や優良繁殖雌牛の造成による繁殖基盤強化
- 品種の特徴を活かし、消費者ニーズに対応した消費拡大対策やブランド力の向上を推進
- 自給飼料の利用拡大、地域内一貫体制の構築、早期肥育技術の導入等による低コスト生産の推進

〈食肉流通〉

- 食肉処理施設の再編や稼働率の向上、輸出にも対応する衛生管理の高度化を推進

3 飼料生産

- 牧草の生産性向上のため、「草地整備」、「草地改良」、「草地更新」などを推進
- 高栄養価のサイレージ用とうもろこしの作付け拡大などを推進

4 畜産環境

- 温室効果ガス削減効果が期待できる飼料原料の活用や、家畜排せつ物管理方法の変更など、環境負荷低減の取組を推進

5 家畜衛生

- 家畜伝染病の侵入及びまん延防止対策の実施、飼養衛生管理基準の遵守の徹底、海外悪性伝染病の侵入防止の強化
- 産業動物獣医師等の育成・確保の推進

◆現状（令和5年度）→ 目標（令和12年度）

| | | | |
|------------|---------|---|-----------------------|
| ・乳牛（経営体数） | 5,170 戸 | → | 4,500 戸 |
| （頭数） | 822 千頭 | → | 780 千頭 |
| （生乳生産量） | 417 万トン | → | 445 万トン |
| ・肉用牛（経営体数） | 2,120 戸 | → | 1,950 戸 |
| （頭数） | 559 千頭 | → | 561 千頭 |
| ・飼料（作付面積） | 583 千ha | → | 583 千ha |
| 牧草 | 522 千ha | → | 517 千ha、デントコーン 61 千ha |
| （飼料自給率） | 53 % | → | 59 % |